

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

ごあいさつ

坂の上の雲ミュージアムは、平成19年4月に『坂の上の雲』のまちづくりの中核施設として誕生しました。松山市は、まち全体を屋根のない博物館とするフィールドミュージアム構想のもと、回遊性の高い物語のあるまちを目指しています。

小説『坂の上の雲』には、近代国家の形成期の世界や日本で起きた出来事、そのなかで生きた人びとの人生など多くの物語が描かれ、現代を生きる私たちに大きな示唆を与えてくれます。本ミュージアムでは、これらをテーマにした展示や様々な催しをおこなうことで、訪れた方々に歴史を学び、未来への思索を深めていただきたいと願っています。

坂の上の雲ミュージアム

坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

小説「坂の上の雲」

司馬遼太郎さんが40代のほぼすべてを費やして完成させた作品。松山出身の正岡子規、秋山好古、真之の兄弟を中心に多くの人物を登場させながら近代国家をめざす明治の日本が描かれています。初めての国民意識のなかで一定の資格さえ取れば博士にも官吏にも軍人にもなることができた時代、子規は新聞記者となり、近代俳句、短歌、文章の革新に力を注ぎます。一方、好古は陸軍で草創期の騎兵を育て、真之は海軍における近代戦術の基礎を確立、ともに日露戦争が勃発する激動期を駆け抜けていきます。司馬さんはこの長編について「ばくぜんとした主題は日本人とはなにかということであり、それも、この作品の登場人物たちがおかれている条件下で考えてみたかった」と書いています。今の時代を生きる我々に多くの示唆を与えてくれるでしょう。

産経新聞夕刊連載（1968年4月22日～1972年8月4日）文藝春秋刊



しばりょうたろう
司馬遼太郎

1923年～1996年。大阪市生まれ。大阪外国語学校（現大阪大学外国語学部）蒙古語部卒業。1948年産経新聞社に入社。1960年「皇の城」で第42回直木賞受賞。代表的な作品に「竜馬がゆく」「国盗り物語」「空海の風景」「菜の花の沖」「雑沓疾風録」など多数。その他に「街道をゆく」「風塵抄」「この国のかたち」などの紀行、エッセイも多い。1993年、文化勲章受章。命日の2月12日は、「菜の花忌」と呼ばれる。



三畳一間の子規の書斎

子規が小学校を卒業する明治12年ころ増築された勉強部屋。子規はこの部屋を「書斎」と呼び、漢詩や新聞づくりに励んだ。『坂の上の雲』では、子規が真之を家に誘い、自分の書斎を自慢する様子が描かれている。末広町の正宗寺境内に子規堂として復元。



正岡 子規
[1867～1902]



真之も遊んだ松山城

江戸時代、加藤嘉明によって建てられた連立式平山城。この写真は、正岡子規が旧蔵していたもので、裏に子規自筆の俳句が記されている。子規は松山城に関する数多くの俳句を残している。



秋山 真之
[1868～1918]



好古も通った明教館

1828（文政11）年、松平11代藩主定通が、藩士の文武稽古所として二番町に建てた藩校の講堂。廃藩置県後、松山中学校（現松山東高等学校）の講堂、図書館として使用された。『坂の上の雲』では、8歳でこの明教館に入学する好古の姿が描かれている。



秋山 好古
[1869～1930]

坂の上の雲ミュージアム設計にあたって

今回、「坂の上の雲ミュージアム」の計画にあたって最も表現したかったのは、正岡子規、秋山好古・真之兄弟など、司馬遼太郎さんが愛した、自由な心を持ち“公”のために命を懸けた明治の日本人たちの、力に満ちた時代精神です。建物は城山公園と市街地の境界部分に位置し、来館者は三角形を描くスロープでつながれた展示室を、回遊式庭園を楽しむようにあがっていきます。歴史と共に回遊しながら、明治の精神を感じ、一人一人が思索することのできる空間となるよう心がけました。この施設が、多くの人々に愛され、司馬さんの志に恥じない、真の意味での“公”のための文化施設となることを、心から願っています。



あんどう ただお
安藤 忠雄

1941年大阪生まれ。独学で建築を学び、69年安藤忠雄建築研究所を設立。79年「住吉の長屋」で日本建築学会賞。代表作に「光の教会」、「司馬遼太郎記念館（東大阪）」、「地中美術館（直島）」、「こども本の森 中之島（大阪）」、「プルストック・メルス（パリ）」など。91年ニューヨーク近代美術館、93年と2018年パリのボンビドー・センターで開催開催。イェール大学、コロンビア大学、ハーバード大学の客員教授を務め、97年東京大学教授、03年より名誉教授。93年日本芸術院賞、95年プリツカー賞、05年国際建築家連合（UIA）ゴールドメダルなど受賞多数。10年文化勲章。15年イタリアの星勲章 グランデ・ウフィチアーレ章。21年、フランス政府からレジオンドヌール勲章コマンドゥールを受勲。著書に「建築を語る」、「連戦連敗」、「建築家 安藤忠雄」、「仕事をつくる」等。

松山のまち全体が「屋根のない博物館」

子規と秋山兄弟が生まれ育った松山には、彼らの足跡など多くのゆかりの地や施設が残されています。それらを有効活用して、まちの魅力を高めていこうと、松山市では『坂の上の雲』を機軸に、松山のまち全体を「屋根のない博物館（フィールドミュージアム）」として、彼ら三人が持った高い志を多くの市民と共有しながら、官民一体となってまちづくりに取り組んでいます。「坂の上の雲ミュージアム」はそのような「まちづくり」の核となる施設です。



子規記念博物館

昭和56年開館。正岡子規の世界をとおり、より多くの人びとに松山や文学について親しみ、理解をふかめていただくために開設された文学系の博物館。市民の知的レクリエーションや学校の課外学習の場、研究者の研究機関、観光客のビジターセンターとして親しまれている。



道後温泉本館

1894（明治27）年4月、温泉の近代化をめざした当時の道後湯之町町長伊佐庭知矢により造られた。松山中学校の英語教師として赴任してきた夏目漱石もよく訪れた。改築100周年にあたる平成6年には、国重要文化財に指定された。



萬翠荘

松山城山の南麓にあるフランス風建築。1922（大正11）年、旧松山藩主の子孫久松定謙が別邸として建てた。愛媛県で最も古い鉄筋コンクリート造り。平成23年11月、国重要文化財に指定された。

【施設概要】

設 計 者 安藤忠雄建築研究所
建築面積 936.80㎡
延床面積 3,122.83㎡
構造規模 鉄筋コンクリート（SRC）造
地下1階／地上4階建て

【開館時間】

午前9時～午後6時30分
（入館は午後6時まで）

【休 館 日】

月曜日（休日の場合は開館・その他臨時開館あり）
※毎年2～3月は展示入替のため、休館の期間がございますのでご了承ください。

【観 覧 料】

一 般 料 400円（320円）
高 齢 者 （65歳以上）200円（160円）
高 校 生 200円（100円）
※中学生以下は無料
※（ ）内は20人以上の団体割引料金
※2階は無料でご利用いただけます。

【アクセス】

- JR松山駅から（所要時間10分）
市内電車（道後温泉行）→大街道下車→徒歩2分
- 道後温泉から（所要時間10分）
市内電車全線→大街道下車→徒歩2分
- 松山空港から（所要時間30分）
リムジンバス（道後温泉行）→大街道下車→徒歩2分
- 松山観光港から（所要時間30分）
リムジンバス（道後温泉行）→大街道下車→徒歩2分
- 松山自動車道松山インターから（所要時間20分）

【駐車場について】

一般来館者用の駐車場を設けておりません。
公共交通機関または周辺の有料駐車場をご利用ください。
なお、車いす使用者の駐車スペース（5台）は設けておりますので、ご利用の際にはご連絡ください。



ホームページ



インスタグラム



坂の上の雲ミュージアム

SAKA NO UE NO KUMO MUSEUM

【お問い合わせ】

〒790-0001 愛媛県松山市一番町三丁目20番地
TEL089-915-2600 FAX089-915-3600
URL: <https://www.sakanouenokumomuseum.jp/>
指定管理者／コンソーシアム明治松山

なだらかな坂道が案内する『坂の上の雲』の世界

空中階段

最も負荷のかかる中間部分の支柱を省いた珍しい構造の階段。2階から4階の展示室3までは階段横のスロープをのぼり、4階から2階まで降りる際には、空中階段をご利用ください。



松山の風景

明治時代に撮影された松山の写真を、子規の俳句とともに展示

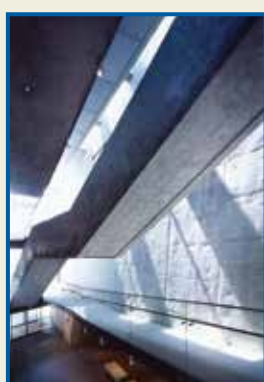


展示室 2

『坂の上の雲』3人の主人公

4F

小説『坂の上の雲』の3人の主人公たちのエピソードやゆかりの資料を展示。また、毎年テーマを新たにした企画展を開催。



秋山真之画「鯉の滝のぼり」



秋山好古書「賀実剛健進取不止」

※展示内容が変更になる場合がございます。



シンボル展示

『坂の上の雲』あとがき

展示室 3

小説『坂の上の雲』を軸に、毎年新たなテーマで企画展を開催



ミュージアムの設備について

○トイレ

- ・2階インフォメーション横と3階に設置
- ・身障者用トイレ有（オストメイト対応）
- ・ベビーシート1台（2階トイレ内）設置

○コインロッカー（リターン式100円）

- 飲料水自動販売機
- ・コインロッカー室に設置

○その他設備機器

- ・車椅子9台（うち介助用電動車椅子2台）
- ・ベビーカー3台
- ・歩行者5台
- ・老眼鏡
- ※ご利用の際は、インフォメーションにお申し付けください。



企画ギャラリー 春や昔

司馬遼太郎が『坂の上の雲』で紹介した松山の風土を物語る資料を展示



展示室 1 『坂の上の雲』とその時代

日本が近代国家へと歩み始めた明治時代を年表や資料、映像などで紹介



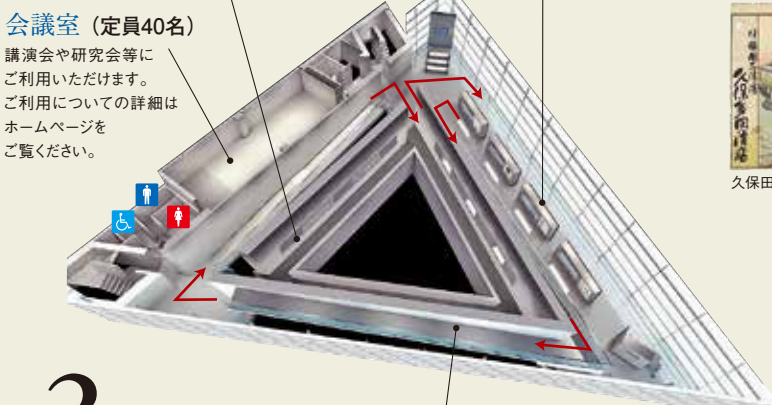
松山のロシア兵捕虜



道後温泉神の湯(明治27年ころ)

会議室（定員40名）

講演会や研究会等にご利用いただけます。ご利用についての詳細はホームページをご覧ください。



久保田回漕店(5|き札)



日露戦争時のロシア兵捕虜から贈られたスプーンとフォーク

3F

小説の背景としての明治時代を年表で紹介。また、近代国家へと歩み始めた明治日本の特徴を、資料や映像などを用いて解説。



道後温泉の振鷺閣に使用されていたギヤマン



釣島灯台からの眺望



釣島灯台官舎内部

3Fから4Fスロープ

『坂の上の雲』新聞連載の壁

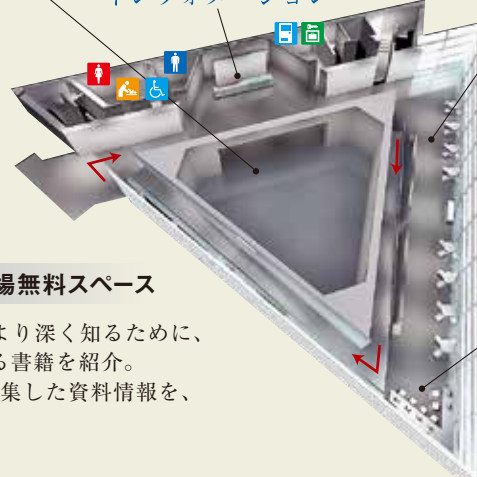
1296回(1968.4.22~1972.8.4)にわたって産経新聞紙上に連載された「坂の上の雲」を展示



ホール

コンサートや朗読会などの定例の無料イベントの他、さまざまなイベントや活動を実施しています。

インフォメーション



ライブラリー・ラウンジ

小説『坂の上の雲』や明治時代に関する書籍を無料で閲覧できます。



「安藤忠雄建築の軌跡」

ミュージアムの設計者、安藤忠雄氏の建築の軌跡を写真や映像、設計図面等で紹介。

2F

■入場無料スペース

『坂の上の雲』の世界をより深く知るために、小説や明治時代に関わる書籍を紹介。また、ミュージアムで収集した資料情報を、パソコン端末で紹介。



デジタルミュージアム

ミュージアムで展示・収蔵している資料を詳しく知ることができます。(タッチパネル式で操作も簡単)



MUSEUM CAFÉ ミュージアムカフェ

営業時間10:00~17:00 カフェのみご利用可

国指定重要文化財の純フランス風洋館「萬翠荘」と、四季折々の草木が彩る眺望が窓いっぱいに広がるカフェ。オリジナルブレンドコーヒーや紅茶など各種メニューとともに、ゆっくり贅沢な時間をお過ごしください。



音声ガイド

- ・利用料金 1台100円
- ・レシーバーを耳にあてる方式で、館内展示や建物の説明をお聴きいただけます。
- ・日本語・英語・中国語・韓国語・台湾語対応

